

Usability & Accessibility

20 内閣府サイト



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット
URL <http://www.udit-jp.com>
「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

「寄り合い」の組織形態がサイトの構成にも強く反映

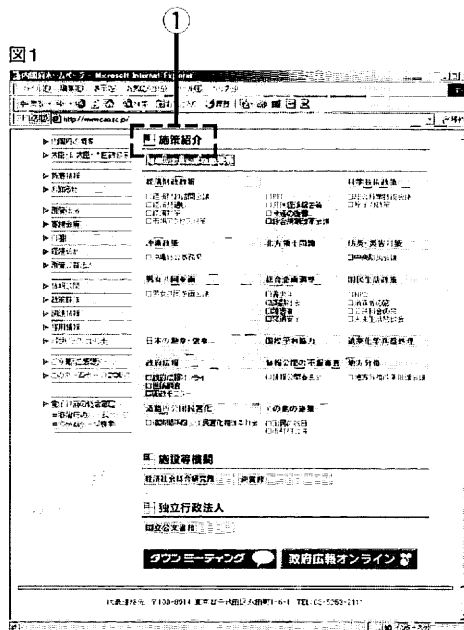
中央省庁改革時に、内閣総理大臣を長とする機関として「内閣府」が誕生した。内閣機能強化の一環として設置されただけに、防衛庁、金融庁、宮内庁、国家公安委員会などの組織を束ねる重要な役割を担っている。孤立化が噂される小泉指揮下の内閣府のサイトは、果たして十分に機能しているのだろうか。Webの「ユーザビリティ&アクセシビリティ」の論客、濱田・石田両氏が同サイトの構造改革を提言する。

組織の名称がトップに並び内閣府はポータルサイト?

大企業や大きな組織のWebサイトでは、サイトの構成＝組織図になってしまっているところがあります。今回の内閣府はこの典型的な例です。トップページで組織が概観できるようにしていることは悪くないのですが、Webサイト＝組織図ではありません。組織の名称が並んでいるだけでは、そのページのどこを見れば自分の欲しい情報が載っているのが理解できません。

内閣府では各組織の名称をクリックすると、全く別のデザインのページが現れます。各組織がそれぞれ独立してWeb管理をしているため、全く統一感がなく、下手をすると内閣府へ戻るリンクさえ用意されていません。組織単位で分担してWebサイトを運営する場合は、内閣府の一組織であるという位置づけを示すために、ヘッダやフッタなどのデザインを部分的に統一したり、ナビゲーションのルールを設ける必要があります。

今回の内閣府のトップページは「内閣府Webサイト」のトップではなく、「内閣府組織のポータルサイト」に過ぎません。内閣府のWebサイトが提供したいことは組織の入り口を示すことだけでしょいか。組織のWebサイト＝組織図ではありませんが、ここでは図らずも組織のあり方を示してしまっているのかもしれない。



ユーザビリティ総合評価 ★★☆☆☆

一ロコメント きれいなのはトップページだけ。一歩中に踏み込むと、どこにいるかわからなくなります。内閣府は障害者、高齢者などの政策にかわり、興味深い内容があるはずですが、このサイトを使って情報を調べるのは難しそうです。

アクセシビリティ総合評価 ★★☆☆☆

一ロコメント デザインの統一はされていませんが、テキスト文章が多いので、アクセシビリティ的にはさほど問題はありませんでした。

これだけはクリアしたい アクセシビリティガイドライン(1)

以前(2002年10月号)にアクセシビリティガイドライン項目を紹介しましたが、今回はその内容を簡単に紹介したいと思います。
【画像にはALT属性をつけること】



●ALT属性の悪例:「広がる海、雲の中央に夕日があり、全体がオレンジに染まり、右下に黒くシルエットになったヨットがある」

内容を細かく説明して文章が長くなっています。端的に内容を表現しましょう。また、音声で聞いて前後の本文と区別がつくように「○○の写真」などとした方が良いでしょう。「内容がわからない写真」、「イメージ」とか、「web01.jpg」のようなファイル名をつけることは避けましょう。

注: ALT属性をあまり長くすると、Netscapeでは横1行で表示するため、画面からはみ出してしまう場合があります。

●ALT属性の好例:「夕日でシルエットになった海に浮かぶヨットの写真」

ALTのつけ方に絶対的な答えはありません。上記以外にも、「ヨットの浮かぶオレンジ色に染まる海の写真」や「イメージ写真: 朱色に染まる海、静かに時が流れる」など、表現の仕方はさまざまです。文字の違いによる悪例としましたが、人による好みの違いもあり、内容を詳しく説明してほしい視覚障害者もいます。ですから何をいれるか難しいのですが、要は制作者が見る人に何を伝えたいかを考えることで、おのずと答えは得られるでしょう。なお詳細は、<http://www.udit-jp.com/web/guide/guide1.html>をご覧ください。

ユーザビリティについて (解説/石田直子)

ユーザーにサイトの目的が伝わること ★★★★★

施策として項目がまとめられており、内閣府がさまざまな分野の管轄をしていることが理解できます。サイトの目的が内閣府の施策を紹介することであり、さらにそれが何であるかがよくわかります。

全体像がトップページで把握できること ★★★★★

トップページの多くを占める部分が、「施策紹介」となっています(図1-①)。この項目自体が内閣府の施策の概観となっています。しかしWebサイトは内閣府の施策と同一ではありません。前頁でも述べたように、それぞれの項目をクリックすると、各組織が運営するトップページへジャンプします。運営をしていく上で各組織が分担するのは構いませんが、内閣府のトップページは「ただリンクを張っているだけ」に見えてしまいます。見かけ上は一つのサイトであるということがわかるように、統一感が重要です。

デザインや構成が統一されていること ★

トップページはすっきりまとまった美しいデザインですが、これは各組織の運営するページへのリンクであるため、それぞれの組織でデザインが異なります。一方、「白書一覧」などの左列に配されている項目は、デザインワークといえるものが全く感じられず、項目を並べただけです(図2)。内閣府のサイトであることを示すため、最低限のヘッダ、フッタなどのデザインとナビゲーションエリアを統一しましょう。

必要な情報が適切な場所にあること ★

各部署のページへジャンプするとそれぞれ異なるデザインとなっており、オリジナルのコンテンツが表示されます。しかしトップページからリンクされている項目にもかかわらず、各ページから内閣府へ戻るリンクがついていない場合があります。図3は沖縄総合事務局のページです。このページに限らず、トップページから1階層目にもかかわらず、デザインが全く継承されず、あたかも別のサイトへジャンプしたかのようです。

次の動作がわかりやすいこと ★

図4は「ご意見・ご感想メール」のページです。各政策などについて国民からの意見をメールで寄せてもらうために、各部署のメールリンクやメールフォームへのリンクが並びますが、それぞれメールアドレスが違います。利用者がこのリストの中から適切な質問先を選んでメールを出すことができるのか、はなはだ疑問です。ここはメールを募集するページというより、各部署へのメールの一覧とすべきです。無論このアドレスは各ページに用意された上で、これらを集めたものとなっていることが前提です。

予想されたフィードバックが返ってくること ★★

トップページからジャンプする項目について、内閣府の組織内のものあれば、全く違うサイトに行ってしまうものもあります。リンクを見ただけでは、どのリンクが外部組織へ出てしまうものかわかりません。またジャンプ先でもデザインが違うため、サイトの外へ出たのかどうかわかりません。

図2

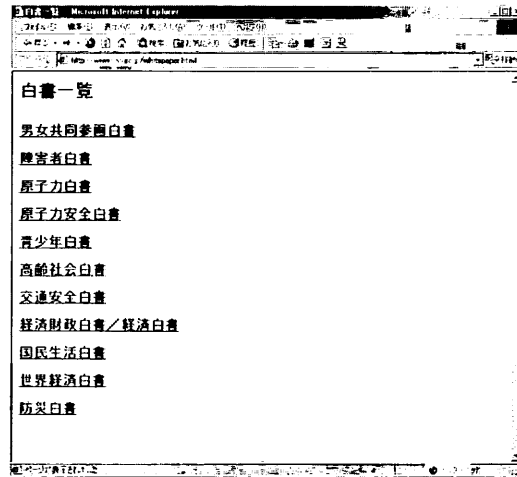


図3

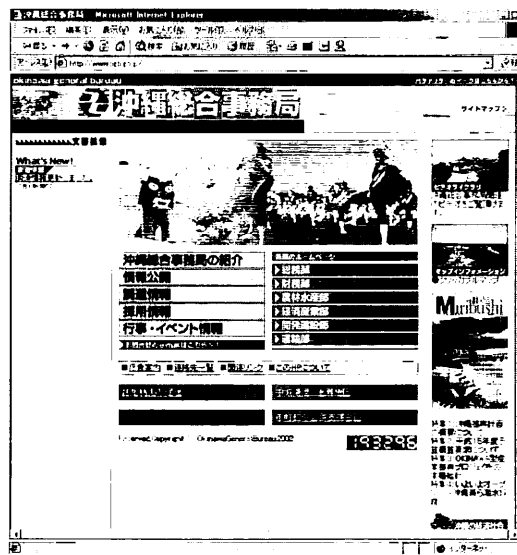
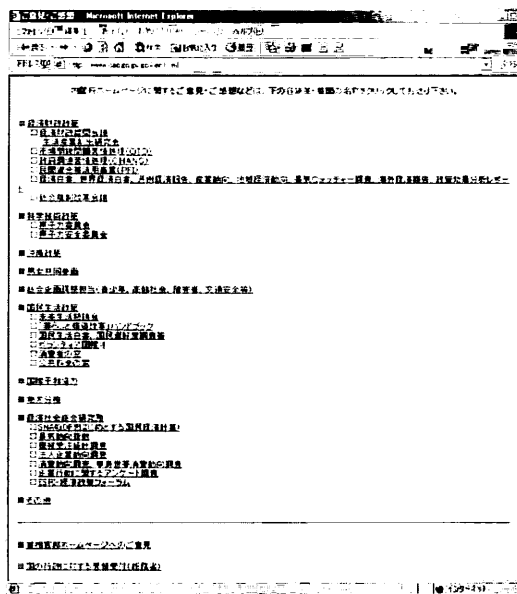


図4



アクセシビリティについて (解説/濱田英雄)

図5

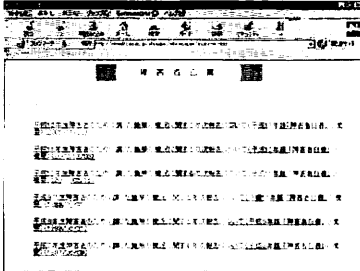


図6

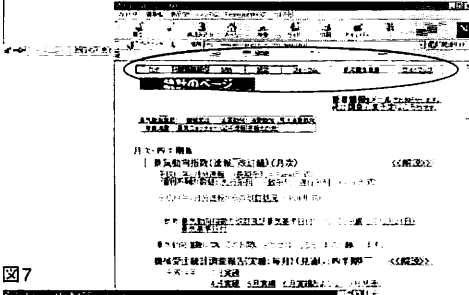


図7

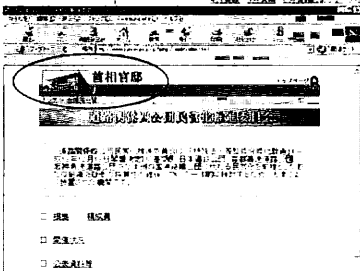


図8

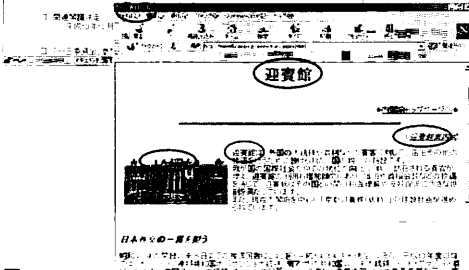


図9

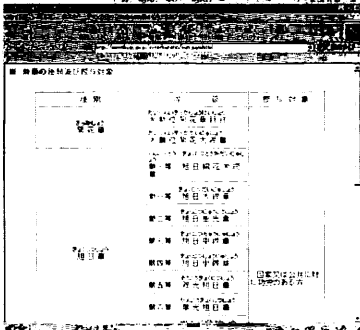
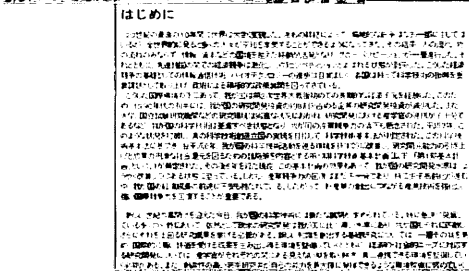


図10



画像にはALT属性をつけること ★★★★★

若干問題もありますが、ALT属性は一応ついているようです。

外国語の乱用はしないこと ★★★★★

一部に略号が使われていますが、概ねよいと思います。

<title>タグは的確につけること ★★

一部のフレームで、内容と合致しないタイトルがありました。

背景と文字色はコントラストがあること ★★★★★

背景やタイトルに見にくい部分があります。

フレームの使用は必要最小限にすること ★★★★★

問題のあるフレーム使用が一部にありました。

新しい技術には代替手段を用意すること ★★★★★

新しい技術は使われていないようです。

その他

【トップページ】

●テキストのメニュー

左側のメニューですが、Netscapeではマウスポインターをあてても変化しない問題がありますが、画像文字を極力減らし、ブラウザで拡大できるようにした作り方は評価できます。

【障害者白書】

●テキストリンクのつけ方(図5)

このページの項目は、よく見ると年度と日付が違うだけでタイトルは同じです。音声では同じタイトルを繰り返し聞くことになってしまいます。一般の人にとっても見づらいので、タイトルは最初の一つにして、後は年号と日付だけにしてリンクさせるべきでしょう。

【ESRI統計メニュー】

●ステップチャート(図6)

ページの最初に現在位置がわかるよう、テキストリンクのステップチャートがありますが、現在位置にもリンクが張ってあるので音声では役目を果たしません。少なくとも現在位置のリンクは外した方がよいでしょう。

【道路関係四公団民営化推進委員会】

●ALT属性のつけ方(図7)

このページでは、<title>の後に画像のALT属性で「首相官邸」と2度読み上げられます。イメージはわかりますが、唐突に予測しない言葉がでてくと混乱します。何を表したいのか考えてつける必要があります。

【迎賓館】

●同じ言葉の連続(図8)

<title>を含めて最初の方だけで「迎賓館」と5回も読み上げられます。視覚的には並んでいなくても、音声では続けて聞こえます。ALT属性やタイトルのつけ方を工夫する必要があります。

【勲章の種類及び授与対象】

●表の読み上げ方(図9)

この表は音声での読み上げに問題があります。フリガナを振るのはよいのですが、音声ではフリガナと本文の2度読みになります。なおかつ本文にはスペースが入っているので、単語ではなく単漢字読みになり、よけい内容がわかりづらくなっています。解決策の一例としては、事前にフリガナが振ってあることを知らせる方法があります。あるいは面倒ですが、フリガナと漢字部分を画像にしてALT属性で読み方を入れる方法です。ただし、音声でわかりやすくなりますが、どんな漢字なのかはわからなくなります。

【科学技術基本計画】

●長いページ(図10)

このページは60画面くらいの長さになっています。印刷などを考えて、1ページにする場合は、最初に目次をつけてアンカーで該当個所にリンクできるようにしましょう。